

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際には是非ご覧ください。

ライブラリープラザ 1F

ジオの恵み 住む人来る人に ~美しい春の伊豆半島へ~
(期間: 2025年1月~3月)



伊豆半島は静岡県の南東部にあたり、相模灘、駿河湾、太平洋に囲まれています。半島は、古代の海底火山活動により形成されユネスコ世界ジオパークとして認定されています。起伏の大きい山地や海食崖など、美しく特徴的な景観や約2,300もの源泉を有し、伊豆半島は全国屈指の温泉地でもあります。

富士山系からもたらされる湧水や清流など潤沢な水により栽培されるワサビに代表される農産物、いちごやみかん等の果物、深い駿河湾から獲れるタカアシガニや多彩な魚介類など、伊豆半島ならではの豊富な食材にも恵まれています。

冬も温暖な伊豆半島では、水仙や河津桜などの見ごろを迎え、多くのイベントも予定されています。鉄道や高速道も整備されアクセスの良い伊豆半島に出かけてみませんか。



協力) 静岡県東京事務所
美しい伊豆創造センター
<https://office.b-izu.com/>

エントランスギャラリー 1F

■ エントランスギャラリー (次回予告)

次回は、「おきなわサステナラボによるサステナブルツーリズム推進の取り組み」(仮題)をテーマにパネル展示いたします。ご期待ください。

Information

〈当財団新刊のご案内〉

『観光文化263号』 不確実な時代に求められる観光研究の役割 (2024年11月発行)

新型コロナ、自然災害の増加、政情不安、さらには IT技術の急速な発展等により、未来が予測しづらい状況が高まっている。こうしたVUCA時代(「Volatility: 変動性」、「Uncertainty: 不確実性」、「Complexity: 複雑性」、「Ambiguity: 曖昧性」)とも呼ばれる不確実性の高い世の中において、観光研究が社会において果たす役割について改めて問う。



港区の専門図書館紹介

「旅の図書館」がある東京都港区には様々な特色を持つ魅力的な専門図書館が数多くあります。当コーナーではそれらの図書館をシリーズで紹介していきます。

物流博物館

物流博物館は1998年に開館した、暮らしと産業に欠かせない「物流」の歴史と現在を紹介する、日本で唯一の物流専門の博物館です。文書史料約6,000点、美術工芸資料約200点、実物資料約1,000点、写真資料約10数万点、映像資料約200点のほか、主に物流に関する図書・雑誌類を約1万5千点収蔵しています。展示室では産業記録映画の視聴も可能です。お調べの内容によっては、収蔵写真・映像や博物館資料の紹介もいたしておりますので、図書閲覧をご希望の方はお電話でご予約ください。

なお、1月26日(日)まで、関東近郊とその周辺の鉄道古写真類約100点をパネルで紹介する企画展「鉄道古写真展—鈴木直利氏コレクションから—」を開催中です。



- 所在地: 東京都港区高輪4-7-15
 - 電話: 03-3280-1616
 - 開館時間: 午前10時~午後5時 (最終入館: 午後4時半)
 - 休館日: 毎週月曜日及び毎月第4火曜日 (但しこれらが祝日・休日の場合は開館)、祝休日の翌日、年末年始、展示替・資料整理期間
- ※ご利用には入館料(高校生以上200円、65歳以上100円、中学生以下無料)が必要です。

たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 30

2025年1月号



写真提供: Pixta



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

第34回 旅行動向シンポジウムを開催しました

2024年10月31日と11月1日の2日間にわたり、第34回旅行動向シンポジウムが東京・青山の日本交通公社ビルで開催されました。本シンポジウムでは、一日目はコロナ禍からの市場回復をテーマに、国内旅行の回復傾向や海外旅行の復活に向けた課題についてデータを基に報告がされました。さらに、欧州視察報告としてオランダの国立公園やアムステルダムの観光政策を取り上げ、国際的な自然保護や観光政策の動向について東京大学の中島教授および山本准教授による解説が行われました。

二日目は地方創生をテーマに、セントラルフロリダ大学の原忠之氏による基調講演が実施され、観光地経営の重要性や人材育成、観光資源の活用などが論じられました。また、観光庁や京都市観光協会などの有識者を交えたパネルディスカッションでは、観光振興財源としての宿泊税や女性活躍推進の課題が議論され、地域特性を活かした持続可能な観光のあり方が共有されました。

以上、非常に充実した内容の2日間となりました。今後もJTBFでは旅行・観光分野の実践的な学術研究機関として、社会に求められる研究テーマに積極的に取り組み、旅行動向シンポジウム等の場を通じて、皆さまにより有益な情報を提供していきたいと思っております。



2024年度第2回 温泉まちづくり研究会を開催しました

首記研究会を11月7日に当財団ライブラリーホールにて開催しました。観光庁観光産業課課長 羽矢憲史氏、株式会社王宮専務取締役 橋本明元氏、草津温泉観光協会DMO 人材育成部会長 中澤牧子氏にご講演いただいたほか、研究会会員によるグループディスカッションも行われ、盛況のうちに閉会となりました。

今回のテーマは「人材不足」でした。羽矢氏の講演においても、宿泊業・飲食業の欠員率が高く構造的に人手不足に陥っている現状、宿泊業の賃金が低水準である現状について言及がありましたが、そのような背景を踏まえて今後何を行っていくべきか、幅広い議論がなされました。



温泉まちづくり研究会は、温泉地が抱える共通の課題について解決の方向性を探り、各地の温泉地の活性化に資することを目的に、2008年4月に設立された研究会です。会員温泉地の関係者や行政担当者、有識者などが集まり自由闊達に議論し、研究会で得られた情報や知見は、「提言」等にまとめ全国へ広く発信しています。

東洋大学 国際観光学部 内田彩ゼミナールの 皆さんが来館されました

11月中旬に東洋大学内田彩ゼミナールの3年生17名が来館されました。今回は旅行・観光・観光地に関する卒業研究を行うにあたり、事前に希望分野の下調べを済ませたうえで図書館を活用いただきました。「卒論について悩むことが多かったが、旅の図書館を利用したことで、自分がやりたいことや研究したいことが明確になった」等、貴重なご意見を数多く頂戴しました。



旅の図書館オススの一冊！

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します！



1 ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり

美しい伊豆創造センター 監修 佐藤 真久 辻 修次 山本 隆太 編著
静岡新聞社 2024年8月 199頁

ジオパークの役割は大きく二点、一点目は多様な事業や仕組みを構築する「持続可能な開発の砦」として、二点目は観光客の集客を期す「地域創生の切り札」としての要素である。本書ではあらゆる面での可能性を考察。

2 旅行事業論

矢嶋 敏朗 著 REGION 2024年5月 133頁

旅行業従事31年の実務家教員が旅行業の将来を考へ執筆した業界研究書。模擬演習のチェック項目を設ける等著者の経験を下に工夫された旅行ビジネス論。

3 観光消滅 ～観光立国の実像と虚像～

佐滝 剛弘 著 中央公論新社 2024年9月 237頁

「日本は観光立国である」、他方でインバウンドの活況とアウトバウンドの立ち遅れが指摘されて久しい。オーバーツーリズムの弊害等で、観光の持続可能性は担保できるのか。豊富な事例をもとに観光の将来性を分析。

4 DMOと観光行政のための マーケティングとマネジメント

高橋 一夫 著 学芸出版社 2024年12月 272頁

観光客の「訪れてよし」と住民の「住んでよし」の両立、そして地域が「稼いでよし」となるには？ 基盤整備等のマネジメントと、地域を訴求し誘客するDMOのマーケティング事例を、著者自身の知見と経験を基に説く。

5 地方創生 ～失われた十年とこれから～

秋田魁新報「地方創生」取材班 著 秋田魁新報社 2024年9月 300頁

地域ならではのメディアの視点から政策としての「地方創生とは何だったのか」を検証・考察する。地域こそが主体となり「変化と希望」を生み出すことで、地域を創生していく可能性と必要性を説く。

6 ストックシェアリング

～蓄積された地域価値の再編による新しいコミュニティづくり～

井澤 知且 名古屋学院大学社会連携センター編集委員会 編
風媒社 2024年9月 261頁

地域の課題解決と新価値の創出を目的とする「ストック・シェアリングを通じた地域価値編集による新世代型コミュニティの実現に向けた多層的な研究」により地域の価値を編集できる大学のブランディングを目指す。

7 米国流展示会ビジネスの実践法

菅 望之 著 インプレスNextPublishing 2024年7月 106頁

米国トレードショーマーケットでの実践的な実務と交流経験を基に、企画・営業・広報・運営を一貫して、かつ極めてわかりやすく解説する。日進月歩のビジネス環境の中、展示会ビジネスを学ぼうとする人への教科書となる一冊。

8 新しい観光学 ～観光とリゾート、そしてオルタナティブ・ツーリズム～

十代田 朗 著 左右社 2024年11月 290頁

日本における「観光」とは何か。歴史を遡り、観光の成立と展開を観光、リゾート、オルタナティブ・ツーリズムに分け、現在に至る変遷をわかりやすく論じる。観光は「まちづくり」の目的であり、終着点ではないかとも提起する。

地域の魅力を紹介する この一冊が面白い！



cushu手帖2024-25 新潟の酒蔵&まちめぐり

高橋 真理子 著 ニール 2024年10月 140頁

新潟県内全89蔵を紹介する。日本の「伝統的酒造り」がユネスコの無形文化遺産に決定されたことで、酒蔵ツーリズムの振興に一役買う年刊ガイドブック。イベント&酒旅、酒蔵見学、日本酒コンテスト、酒販店情報も掲載。



南九州のローカル線おもいでアルバム ～昭和晩年の南薩線・山野線・宮之城線

大田 治彦 有木 道則 著 権歌書房 2024年10月 256頁

南九州を走り、惜しまれながら廃線となった3つの鉄道路線に関する歴史と運行に関する詳細を記載。写真488点、図表135点を盛り込み、南薩線については文書や資料を再調査し線路断面図・平面図、車両や駅設備の変遷一覧なども掲載する大作。